稲沢市社協ボランティア・市民活動だより

あいあい

aiai

（愛・会・合・相）

6号

2008.12.1

ボランティアセンターって何？

ボランティアセンターは、「支え合う」まちづくりに向けて様々な仕事を行っています。

○ボランティアをつなぐ
ボランティア活動をしたい人やボランティアに来てほしい人からの相談を受け、より良いボランティア活動へとつなげます。

○ボランティア情報の発信
ボランティア・市民活動だより「あい・あい」やホームページ・Eメール、その他窓口などをとおして情報提供をしています。

○ボランティアに関する学びの場の提供
講座・研修会を実施しています。

○ボランティアグループ支援
ボランティアグループの結成、運営などに関する相談をお受けしています。また、ボランティアセンター登録グループに対し、活動に必要な設備や機材の貸し出しをおこなっているほか、活動への助成金の交付、NPO法人認証申請手続きに関する相談・支援を行っています。

○ボランティアを知ってもらう、交流の場をつくる
情報交換や仲間づくりの場をつくったり、ボランティアへの参加を広く呼びかけるボランティア集会などのイベントを開催しています。

○ボランティア活動保険の受付
ボランティア活動保険は、万が一の事故などに備えて加入する保険です。

重度重複障害児・者親の会「たんぽぽの会」

設立年月日／平成元年4月
会　員　数／15名
連　絡　先／☎0587-21-4114　田中さと美

「どんなに障がいが重くても在宅にしたくない」という親の願いから、この会は発足しました。

それから20年、多くのかたの助けを得ながら活動を続け、今年ついに長年の夢であった療育作業所を大塚に開設する事となりました。

作業所の活動主体は「NPO法人たんぽぽハウス」に移行していますが、私たち「たんぽぽの会」は「NPO法人たんぽぽハウス」を支援していきたいと思います。会では、学習会やバス遠足・クリスマス会など親子でレクリエーションを行っています。ボランティアさんも募集中です。子どもたちの障がいはさまざまですが素直な子どもたちばかりです。一緒に参加してみませんか？

（イラスト：学生ボランティア情報局　松川健太）

発行　社会福祉法人　稲沢市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒492-8218　稲沢市西町三丁目10番24号　社会福祉会館内　　TEL（0587）23-6713　FAX（0587）33-4666
E-mail　volo-info@inazawa-shakyo.or.jp　ホームページで読める!!「あい・あい」　http://www.inazawa-shakyo.or.jp

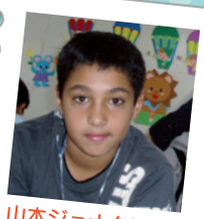
この稲沢市社協ボランティア・市民活動だより「あい・あい」は、市内在住・在勤・在学の編集ボランティアが作成し、社協会員会費により発行しています

こんな活動しています
～多文化共生に向けて～

10月11日(土)にNPO団体「外国人の教育を考える会 グループ レフォルソ」による〝外国人児童・生徒のための補習教室〟が稲沢市松下町にあるフェニックス学園内で行われました。この日も大勢のブラジル人の子どもたちが訪れ、子どもたちはボランティアの指導を熱心に聞いて、国語や算数、母国語を学びました。

グループ レフォルソは平成20年度愛知県多文化共生社会づくり推進事業の委託を受け、母国語や日本語の指導、保護者の生活相談・子どもの進路相談などを行う活動を行っています。その一環であるこの補習教室も全14回予定されています。

山本ジョナタンくんのお母さん
「成績も上がり、友達もできて、助かっています」



山本ジョナタンくん
「ここでは日本語とか色んなことを勉強できるからうれしいです」

ボランティアの野口さん
「それぞれに合った教え方を考えてやっています」

雨宮モニゼさん(姉)
ムリロくん(弟)
(姉)「分からないこととか難しいことを教えてもらえるから楽しいです」

【代表者のコメント】加島智佳子さん
「特に日本で生まれた子は日本語と母国語が中途半端になり、親子とのコミュニケーションが十分できない場合もあります。私たちはこれからもこの活動を長く続けていき、たくさんの支援を行っていきたいです」

問合先／0587-21-2660(加島)

ボランティア活動に関する情報をメールにて発信します。
メール情報の登録を希望される場合は氏名、電話番号、住所を記入のうえ
volo-info@inazawa-shakyo.or.jp までご送信ください
(携帯電話可)

誰もが通じ合える社会へ
～心のこもった温かいコミュニケーションが大切～

10月25(土)・26日(日)の2日間、勤労福祉会館および総合体育館にて開催しました「第21回福祉まつり」において、手話や点字を体験する催しが勤労福祉会館の一室で行われました。

この催しでは、手話活動を行っている「くさのみ」「青空手話サークル」「平和町手話サークル結びの会」「稲沢手話サークルつくしの会」と、点訳活動を行っている「睦美会」といったボランティア団体が主体となり、手話による自己紹介やあいさつの仕方を教えたり、自分の名前を点字で打ったものをしおりにしたりするなど、手話や点字を楽しく、そして、身近に感じてもらえるよう工夫された内容で、参加者に手話や点字の魅力を伝えていました。

参加したあるボランティアは、「心が通ったコミュニケーションが大事、それも知ってもらいたい」と、〝技術〟より〝心〟という大切なメッセージも込めて活動していました。

手話体験

点字体験

募金は素晴らしいボランティア

～「みんなで支え合う」という気持ちを大切にしたい～

10月1日(水)と4日(土)、赤い羽根共同募金運動の開始にともない稲沢市内の駅及びスーパーにて街頭募金が行われました。民生委員や子ども会、日赤奉仕団、婦人会などがボランティアとして募金運動を行い、募金を呼びかける声が辺りに響き渡っていました。

募金運動は、活動をする人も募金をする人もボランティアです。民間の社会福祉事業に活用される共同募金運動は12月31日まで行われます。詳しくは、稲沢市共同募金会（0587-23-6713）まで。

ボランティア同士のコラボレーション

10月6日(月)に稲沢公民館で、高齢者の健康増進を目的に幅広いボランティア活動を行う「いきいきクラブ」が映写会を開きました。そこで16㎜映写機やプロジェクターの技術提供を行うというボランティアの鈴木慶春さんが映写活動を行い、ボランティア同士のコラボレーションで大いに利用者を盛り上げました。

この日の映写会を終えた鈴木さんはボランティア活動について、「ボランティアなんて大げさなものではなく、自分はただ好きなことをして、奉仕をさせていただいている」と笑顔で述べていました。

右：映写活動をする鈴木さん
左：いきいきクラブ代表の加藤さん

まっしろ！

作　学生ボランティア情報局　松川健太

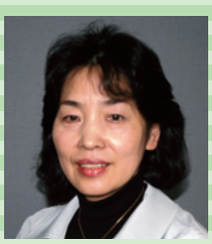
私のボランティア

今回は、市制50周年記念特別被表彰者である稲沢市社協ボランティアセンター登録者からの「ボランティア」メッセージをお届けします。

●石田昭士さん

車いす生活となっていた私に社協の職員さんから「学校で子どもたちに福祉について教える福祉教育活動を行わないか」というお誘いが、ボランティア活動を行うきっかけになりました。あれから27年経ちますが、今も学校を巡って福祉教育活動を続けています。これまでの生活では、苦しいこと辛いこともたくさんありましたが、今は日々の生活をありがたく思い、過ごしています。

●千坂榮子さん



将来、もしかしたら私の母も介護のお世話になるかも。だったら助け合いかなと思って、美容カットのボランティアを行うことにしました。今は障がい者施設の利用者さんや病院に入院している患者さんが私を待っていて下さることが励みでもあり、喜びです。

募集のコーナー

【問合先】　稲沢市社会福祉協議会ボランティアセンター　TEL.0587−23−6713
〒492-8218　稲沢市西町三丁目10番24号　社会福祉会館内　volo-info@inazawa-shakyo.or.jp

本誌への取材・記事掲載依頼募集！

募集記事など、本誌への掲載をご希望のかたは、ボランティアセンターまでご連絡ください。

ご意見募集！！

本誌に関するご意見はもちろん、「ボランティアに関する」ご意見等がありましたら、郵送又はメールにてボランティアセンターまでご応募ください。

ボランティアあつまれ〜

依頼者(依頼団体)	募集メニュー	日時・回数	場　所	内　容	募集人数
「はなのき寮」支援ボランティアグループ	個人外出支援	月1、2回程度 午前10時〜午後3時頃 （午後だけもあり）	ショッピングモール 美術館・図書館 映画館・飲食店 など	①リフト車運転（普通免許） ②外出時の介添え （資格不要） ③活動は稲沢市周辺に限定	多数
学生ボランティア情報局	演劇活動	月１回程度	社会福祉会館	小学校３年生以上の学生による「福祉に関する演劇活動」を行います。	多数
	まちづくり活動	年数回	社会福祉会館	高校生以上の学生を対象に、イベント参加、情報誌づくりの協力、福祉の広報活動など、様々なまちづくり活動を行っていきます。	多数
稲沢市社会福祉協議会ボランティアセンター	取材・原稿作成など	２か月に１回程度	社会福祉会館（会議時会場）	本誌「あい・あい」の作成を楽しく行っていきます！	数人

事務局から

都市政策プランナーである田宮 明氏の著書『まちづくりの実践』（岩波新書）に次のような話がある。

「小学校の子どもがすることがないと言うので、母親が集落の宝探しでもしてみたらと声をかけたら、その子どもはなんと宝を二十も発見して帰ってきた。その宝とは、おもしろい形の岩、美しい野の花、昔のことを知っているおばさん、草鞋（わらじ）づくりのうまいおじさんなどである。」そして、田宮氏はこう述べる、「探してみれば身近な所に宝はたくさんある。」と。

ここ稲沢市はどうか。映写技術のあるかた、点字や手話のできるかた、散髪ができるかた、そして、思いやりのあるかたなどなど、やはり「宝」はたくさん存在しているようだ。

これからも本誌「あい・あい」は、編集委員がたくさんの「宝」を発掘し、皆さんに届けます。

ボランティアの風景

特別養護老人ホーム〝第二大和の里〟にて、
習字のサポートをしています。
（ボランティアグループ　稲沢明るい社会づくりの会）

編集委員の声

「ボランティアの心」

あとひと月で今年も終わる師走の時期。慌ただしさにも拍車がかかり始めます。私たちは些事（さじ）な出来事に追われて生活しています。その中で、「ボランティア」として熱心に取り組んでいらっしゃるかたも大勢います。

さらに、自分の出来ることを気づいた時にさりげなく行うことも、ボランティアの一つのあり方だと思います。

こんな光景を目にしました。名鉄の国府宮駅についた電車から、大きな荷物を持ち、赤ちゃんをのせたベビーカーで階段に向かう女性。通勤客の後を遅れてベビーカーを押す姿は、あとひとふんばりとでも、疲れたようにも見えます。そこへさりげなく若い男性が近づいて、ベビーカーを持ち上げ、階段を女性とともに降りていきました。降りた後は、女性のお礼の言葉に軽くうなずき、何もなかったかのように、立ち去っていかれました。清々しさとともに、これも立派なボランティアと思った私。ボランティアの心は、相手を思いやれる気持ちに宿っているのではないでしょうか。

編集委員　塚本ひろ美